

マタイ 36

あなたがたが あげなさい

マタイ福音書14章14～23節

5千人の供食

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

I. 五千人の供食 14:13～22

II. まとめと適用

あなたがたが、あげなさい





0. イントロダクション

カペナウムの再現図

メシアの生涯

宣教 → 拒絶 → 弟子訓練 → 十字架へ

イスラエル
(指導者)

バプテスマ

荒野の誘惑

弟子の召命

宣教開始

メシア的奇跡

安息日論争

ベルゼブル論争

たとえ話

五千人の食事

ペトロの信仰告白

山上の変容

最後の弟子訓練

エルサレム入城

最後の晩餐

紀元70年
エルサレム陥落



メシアの活動は、弟子訓練に移行!!

■ イスラエルに公式に拒絶された後、
メシアの活動の中心は、大衆伝道から**弟子訓練**へ
→ 対象は、イエスをメシアと信じる者たち

■ 教えの中心は、メシアの解説が必要な**たとえ話**
→ たとえ話のテーマは、「**奥義としての神の国**」

神の国とは？ メシア拒絶以前

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

モーセ～ゼデキヤ
③神政政治の王国

⑤メシア的王国・千年王国

イスラエルが約束のメシアを受け入れれば、神の国が、地上に実現されるはずだった。

【地上での神の国】

神の国とは？ メシア拒絶以後

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

⑤千年王国

新天
新地

【地上での神の国】

モーセ～ゼデキヤ

③神政政治の王国



④奥義としての王国

バプテスマのヨハネの死 いよいよ迫るメシアの受難

- 凄惨な死を遂げたバプテスマのヨハネの死。
- メシアの先駆者でさえ、これほどの苦難を受けたなら、メシアを待ち構えている苦難はどれほどのものなのか？
- いよいよ迫る受難に、一人向かっていかれるイエス。

メシアの受難のその先には、教会の時代が待っている



I. 五千人の供食

マタイ福音書14:13～22

序章

寂しいところへ マタイ14:13

それ*を聞くと、イエスは舟でそこを去り、自分だけで寂しいところ*に行かれた。群衆はそれを聞き、町々から歩いてイエスの後を追った。

＊洗礼者ヨハネの死

＊説教の山?! カペナウムから2,5km

■ おそらくは、受難を見据え、祈るために…

■ ヨハネの死を聞いた群衆は、主イエスにすがって陸路を必死に追いかけてきた。



本編 あわれんで マタイ14:14

イエスは舟から上がり、大勢の群衆をご覧になった。そして彼らを**深くあわれんで***、彼らの中の病人たちを癒やされた。

＊“はらわたがねじれるような”

「彼らが羊飼いのいない羊の群れのようにあつたので、イエスは彼らを**深くあわれみ**、多くのことを教え始められた。マル6:34」

■群衆を憐れみ、癒やし、教えたイエス
➡変わらずメシアの使命を果たされた



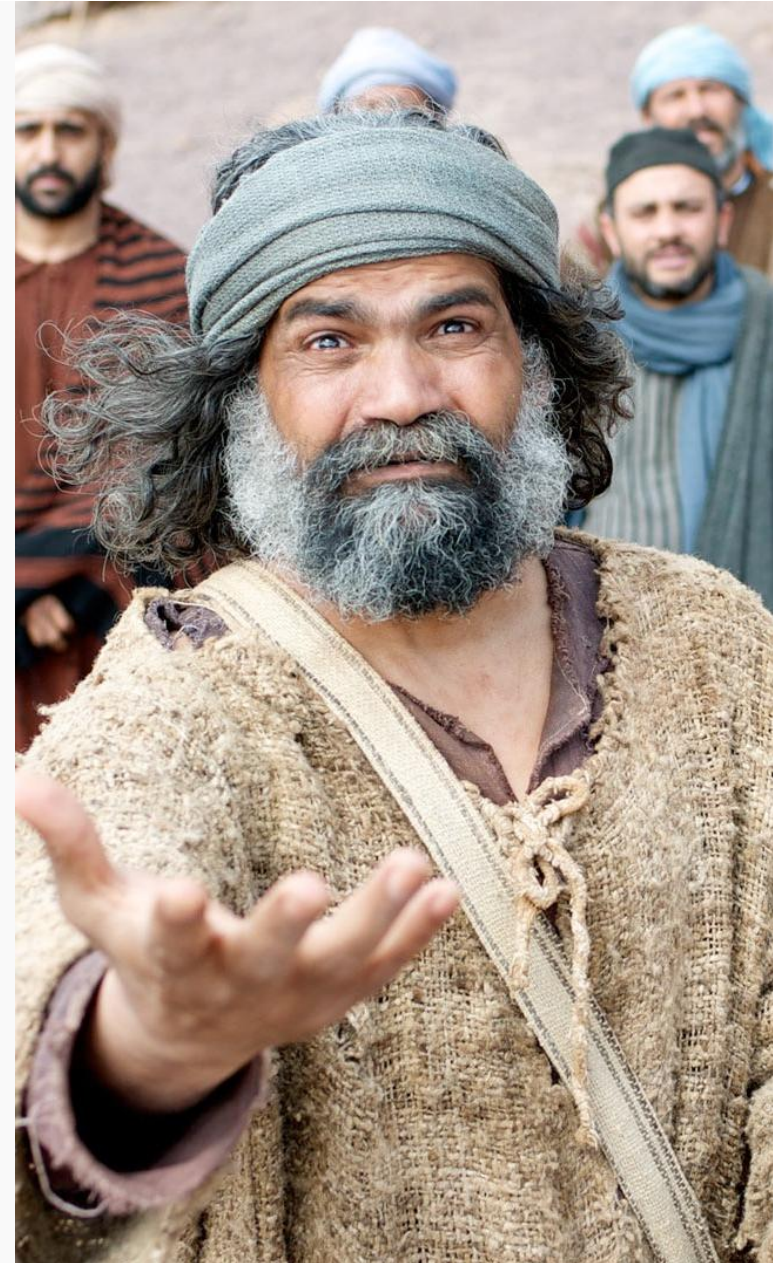
痛みをもって
遣わされたメシア

本編

弟子たちの申し出 マタイ14:15

夕方になったので、弟子たちはイエスのところに来て言った。「ここは人里離れたところですし、時刻ももう遅くなっています。村に行って自分たちで食べ物を買うことができるように、群衆を解散させてください。」

- いつもの集会とは違う、突発的な出来事。
必死に追いすがってきた人々に供えはない。
- 弟子たちが本当に心配していたことは？
➡ 責任が持てない。結局、自分のこと。



本編

あなたがたが マタイ14:16

しかし、イエスは言われた。「彼らが行く必要はありません。あなたがた*あの人たちに食べる物をあげなさい。」

＊弟子たちの訓練は、人々を導くため。

霊的な食物を与えるのが牧会者の責務。

■主イエスが見据えているのは、教会時代。

➡遣わされ、民を養う使命は弟子たちに!!



本編 五つのパンと二匹の魚 マタ14:17

弟子たちは言った。「ここには五つのパンと二匹の魚*しかありません。」

*ガリラヤ湖特産の干し魚or塩漬けの魚

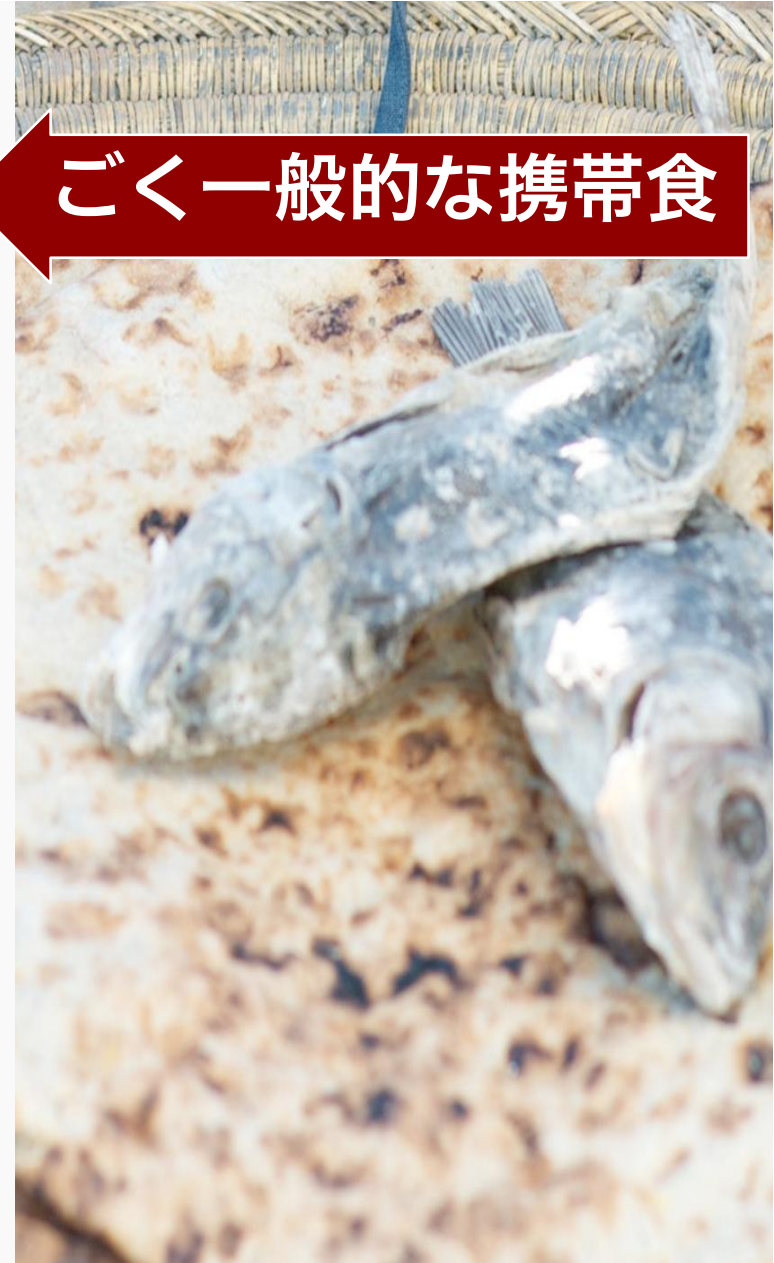
■ヨハネ福音書6章では、ピリポがまず返答。

「一人ひとりが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」

■ペテロの兄弟アンデレが少年を連れてきた。

「ここに、大麦のパン五つと、魚二匹を持っている少年がいます。でも、こんなに大勢の人々では、それが何になるでしょう。」

ごく一般的な携帯食



本編

草の上に マタイ14:18～19a

するとイエスは「それを、ここに持って来なさい」と言われた。

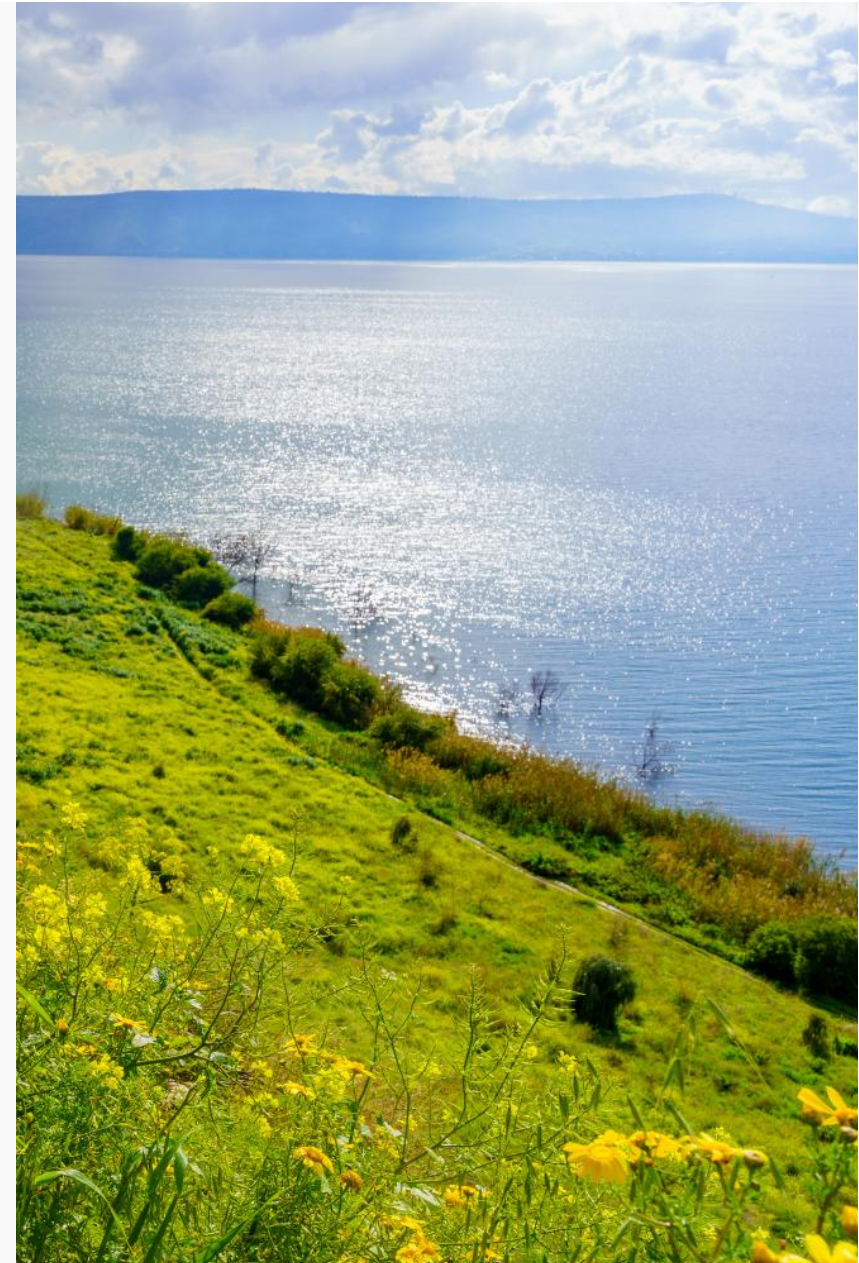
そして、群衆に草の上に座るように*命じられた。

*草がたくさんあった(ヨハネ6:10)

雨季(10月～3月頃) ➡近づく受難!!

「人々は、百人ずつ、あるいは五十人ずつまとまって座った。マルコ6:40」

➡やがて生まれる教会の姿を先取り



本編

配食 マタイ14:19b

それからイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて神をほめたたえ*、パンを裂いて弟子たちにお与えになったので、弟子たちは群衆に配った。

＊過越の最後の晩餐でも(マタイ26:26)

■配られたのは、神の祝福を受けた、神の恵みの糧。

■5千人を満たすパンを生じさせた
➡メシアの業(=神の創造の業)



本編 十二のかご マタイ14:20～21

人々はみな、食べて満腹した。そして余ったパン切れを集めると、**十二のかご***がいっぱいになった。

食べた者は、**女と子どもを除いて男五千人***ほどであった。

＊イスラエル十二部族を象徴

➡イスラエルの民族的救い（神の国の完成）

＊律法の契約の主体（責任者）は、男性（家長）。

…かつてイスラエルは、神と律法を結び、
天のパン（マナ）を与えられた。



本編

その先へ マタイ14:22

それからすぐに、イエスは弟子たちを舟に
乗り込ませて*、自分より先に向こう岸*に向
かわせ、その間に群衆を解散させられた*。

*群衆はイエスを王に担ぎ上げようと…

*ゲネサレ(マタイ14:34)

ベトサイダ(マルコ6:45)

*王に担ぎ上げられそうに(ヨハネ6:15)

■ アンティパスの領土を離れ、ピリポの領地
ピツロ、シドンを巡っていくメシア。





II. まとめと適用

「あなたがたが、あげなさい」

二つの天のパン

- ① 律法を結び、神の民となったイスラエルは、
荒野で、**天のパン(マナ)**によって養われた。
- ② メシアの弟子たちとイスラエルの群衆は、
メシアの与えるパンによって満たされた。

メシアは、イスラエルを養われる主である

余った12のパンの意味

■ メシアのパンは、集った群衆を満たし、
なお、「12のかご」をいっぱい満たした。

■ 「12のかご」が示すのは、イスラエル12部族。

➡ 全イスラエルが、メシアの霊の糧に満たされる
(イスラエルの民族的回心と救い)

メシアが、イスラエルを神の民として回復される

五千人の供食が示す、教会時代

- メシアのもとに集う者たちが、
メシアに与えられる霊の糧に満たされ、育まれて行く。
➡ 教会時代における教会の姿
- メシアを求めるすべての者は、霊の糧に満たされる。
メシアが与える恵みは、絶えることがない。

教会は、メシアの与える霊の糧によって養われている!!

弟子たちに託された使命

- 偉大な預言者にしてメシアの先駆者ヨハネの無残な死。
- 必死にすぎりついてきた群衆を、主イエスは憐れまれた。
- 弟子たちへの命令…「**あなたがたが、あげなさい**」
 - ➡ 持てるものすべて(魚とパン)を出させた
 - ➡ 弟子たちの手で配らせた。

御言葉の糧、福音を人々に配るのは、私たちの使命

パンは、どこで、どうやって増えたのか？

- 主イエスは、祈り、パンを割いて配られた。
パンは、どの段階で増えていったのか？ ➡不明
- 確かなのは、すべての人が満たされ、有り余ったこと。
- 遣わされるただ中で、私たちの必要は満たされていく。
振り返った時に、すべて満たされていたと気付かされる。

救われるべきすべての人は救われる。信頼をもって遣わされよう

主イエスの憐れみに、私の心を重ねよう

■ 追いすがる群衆を、

主イエスは、痛みをもって、“深く憐れまれた”

■ 主の弟子である私たちに求められるのは、

世で見捨てられた人々への痛みをもつての共感。

例) 障害を持った人々、過疎地の人々…

➡ 各々が遣わされた場で、人々の痛みに関心しよう

主の憐れみと愛をもって、世の人々のもとに遣わされよう

★ あなたがたが、あげなさい ★

- 主イエスの目は、迫る十字架の受難を見据えていた。
同時に、来る教会時代への備えを進められていった。
- 「あなたがたが、あげなさい」 主の命令に従おう。
最高の霊的糧、最大の恵みが、主イエスの福音だ。

教会時代の最大の使命に、福音を掲げ、遣わされていこう

「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください。

私たちは、神のみ子、主イエス・キリストが、

①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

②墓に葬られ、

③三日目に復活されたこと、を信じます。

主イエスが、私たちが憐れまれ、救いに導いてくださいました。

「あなたがたが、あげなさい」 主イエスが呼びかけられています。

私たちには、尽きることのない、主の恵みが与えられています。

この救いの福音をもって、私たちが遣わしてください。

感謝して、主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン」